

◎◎◎ 日本ウマ科学会第 36 回学術集会のお知らせ ◎◎◎

日本ウマ科学会第 36 回学術集会は、下記のとおり開催をいたします。ただし状況により開催方法やプログラムの内容を変更する可能性がありますので、最新情報は、日本ウマ科学会ホームページをご覧ください。

会期：2023 年 11 月 27 日（月）～ 28 日（火）

会場：国際ファッションセンター KFC Hall & Rooms（東京都墨田区横網 1-6-1）

参加方法：日本ウマ科学会ホームページ（<https://jses.jp>）をご覧ください。

プログラム：

【一般講演，優秀発表賞講演】

【2023 年奨励賞受賞講演】

テーマ：「動物心理・行動・生態学から探るウマの社会性に関する研究」

講演者：リングホーファー 萌奈美（帝京科学大学生命環境学部）

【特別講演】

テーマ：BEVA(British Equine Veterinary Association) について／自動診断装置を用いた跛行診断への取組みおよび核シンチグラフィーの現状

講演者：Prof. Roger Smith（ロンドン王立獣医大学）

【臨床委員会企画招待講演】

テーマ：馬臨床における科学的証拠に基づいた鍼治療

講演者：Dr. Huisheng Xie（Chi 大学，米国）

【問い合わせ先】

○日本ウマ科学会事務局

日本ウマ科学会ホームページ（<https://jses.jp>）の「お問い合わせフォーム」よりお願いします。

認定馬臨床獣医師資格（更新）申請のお知らせ

認定馬臨床獣医師資格の有効期限が2023年12月31日までの方には、事務局から更新手続きに関するご連絡を郵送にて順次お送りいたします。該当される方は、下記の手順に従って、更新申請期間内に遺漏なく更新申請を行ってください。

(1) 更新申請期間： 2023年12月1日（金）から同31日（日）

(2) 申請書類：

- ・様式第三号
- ・臨床委員会認定馬臨床獣医師更新制度ポイント集計表（15ポイント以上取得）
- ・臨床委員会認定馬臨床獣医師更新制度ポイント履歴表
- ・認定更新振込を確認できる書類の写し

(3) 更新手数料： 7,000 円

・振込先： みずほ銀行 山口支店（店番号 643）

口座番号：（普通）3003142

名義：日本ウマ科学会臨床委員会

なお、申請書類等を受理した後は、更新手数料は返還しない。

(4) 申請書類等の送付先

株式会社アイベック 認定馬臨床獣医師資格担当係
〒170-0002 東京都豊島区巢鴨 1-24-1
E-mail：jses_exam@ipec-pub.co.jp
（お問い合わせは Email にてお願いします）

なお、申請締切日の消印をもって申請を受け付ける。

(5) 指導認定馬臨床獣医師の資格要件

- ・臨床委員会認定馬臨床獣医師更新制度ポイント集計表において15ポイント以上取得していること

(6) 更新申請のための取得単位数の確認方法

- ・メールで株式会社アイベック・認定馬臨床獣医師資格担当係までお問い合わせください。

日本ウマ科学会「認定馬臨床獣医師」認定のための第4回認定試験のご案内

日本ウマ科学会は、我が国の馬臨床獣医師が備えるべき専門知識と臨床技術に関する最新の水準を明示し、馬臨床獣医師の質的レベルを一般社会に広く開示することを目的に、会則第3条5項に基づき、2019年から馬の臨床を専門とする獣医師の認定を行っております。つきましては、第3回認定試験を下記のとおり実施します。

1 試験の日時

2023年11月28日（火曜日）14：10-15：10（60分間）
第36回日本ウマ科学会学術集会に付帯して開催
（オンライン開催になった場合であっても会場で実施予定）

2 試験の場所

KFC Hall & Rooms ※部屋番号は受験票にて通知
〒130-0015 東京都墨田区横網（よこあみ）一丁目6番1号
（都営地下鉄大江戸線「両国駅」A1出入口より徒歩0分）

3 試験の種類等

(1) 試験の科目

試験科目は別に定める認定馬臨床獣医師モデル・コア・カリキュラム項目（Competences for VETCEE accredited equine programs）ならびに関連項目より出題する。

(2) 試験の出題数

試験は合計で50問とする。

(3) 試験の方法

多肢選択方式による。

4 受験資格

次の各号に示す条件をすべて満たした者について受験を認める。

(1) 本会の会員であること

(2) 馬専門の臨床獣医師として5年間以上の職歴を有すること

5 認定登録

認定試験に合格した者については、本会会長が認定証を交付し、認定馬臨床獣医師台帳に記載登録する。

認定の失効、認定の停止および取り消しについては、その事例が発生した時点で、本会のウェブサイトにご公告する。

6 認定の効力

認定は5年ごとに更新手続きを行わなければ、その効力を失う。

7 受験手続

(1) 提出書類等

ア 受験申込み票

イ 履歴書（研究歴を含む市販A4版、写真添付）

ウ 受験料を所定の銀行口座に振り込み、その振込みを証明する書類のコピー

(2) 受験手数料

- ① 受験手数料は、15,000 円とする。
- ② 提出書類等を受理した後は、受験手数料は返還しない。

(3) 振り込み先

みずほ銀行 山口支店（店番号 643）
口座番号：（普通）3003142
名義：日本ウマ科学会臨床委員会

(4) 提出書類等の受付期間及び提出場所

- ① 提出書類等の受付期間は 2023 年 9 月 1 日（金曜日）から同年 10 月 31 日（火曜日）までとする。
- ② 提出書類等の受付場所は認定事務局株式会社アイベック（〒170-0002 東京都豊島区巢鴨 1-24-12）とする。2023 年 10 月 31 日（火曜日）までの通信日付印のあるものに限り、受け付ける。

(5) 受験票の交付

受験票は、2023 年 11 月 10 日（金曜日）までに送付する。この送付日を数日過ぎても受験票が届かなかったときは、認定事務局である株式会社アイベック（E-mail：jses_exam@ipec-pub.co.jp）まで連絡すること。

8 合格者の発表

試験の合格者は、2024 年 1 月 5 日（金曜日）以降に認定証を郵送する。不合格者にはその旨を郵送する。

9 その他

- (1) やむを得ない事由が生じたときは、試験の場所若しくは期日を変更し、又は試験を中止することがある。その場合は、その旨を公示し、又は通知する。
- (2) 問い合わせ先：認定事務局 株式会社アイベック
（〒170-0002 東京都豊島区巢鴨 1-24-12, E-mail：jses_exam@ipec-pub.co.jp）
※お問い合わせは Email にてお願いします。

※ 受験申込み票

日本ウマ科学会認定馬臨床獣医師認定試験 第4回：2023 年 受験申込み票		受付番号： (記入しないこと)		
日本ウマ科学会会員番号：		獣医師免許番号：		
ふりがな 氏 名		男・女	生年月日	年 月 日 生
		本 籍	都・道・府・県	
現住所等 (連絡先)	〒			
	Tel： E-mail：			
所 属 (職 名)				
最 終 学 歴		年 月 大学 学科卒業		
* 馬臨床履歴	馬臨床従事期間 年 月～ 年 月；学部在学期間除く 上記の従事期間に間違いのないことを証明します。			
証明獣医師 氏名	氏名： 印 所属： 役職：			
(所属・役職)	証明者の獣医師免許番号： 認定馬臨床獣医師資格（有・無）			
学位	博士（ 年 月, 大学）			
博士号／修士号	修士（ 年 月, 大学）			
事務局使用欄	確認済／要照会			

※ 年月日はすべて西暦で記入，原寸コピーして使用のこと

※ * 馬臨床履歴の証明者は，すでに 認定馬臨床獣医師の資格を取得した者に限られます。

※ なお，認定獣医師の資格を取得した際には，私の名前を資格取得者の一覧に公開することを承認します。

東映京都の顔役 伝説の馬方高岡政次郎

山口記弘



山口記弘（やまぐち のりひろ）

1960年香川県丸亀市生まれ。元東映太秦映画村社長。東映にて長年イベント事業に携わった。現在は東映株式会社経営戦略部フェロー、東映太秦映画村相談役として「太秦」「時代劇」「子供文化」「キャラクター」「忍者」「東映」などのフィールドを掘り起こす研究と広報活動を行っている。また、毎月第3金曜日読売新聞関西版夕刊に「太秦・時代劇の1世紀」を執筆、東映創立70周年記念ブログ「東映行進曲」を毎週火曜日に更新している。ほかに京福電鉄株式会社非常勤取締役、立命館大学非常勤講師。

1. 旧劇の着ぐるみから時代劇の劇用馬へ

我々は、物心ついたところからテレビや映画を通じて数多くの時代劇を目にしてきた。

時代劇の歴史は100年を優に超えている。

日本における時代劇の嚆矢は、「日本映画の父」と呼ばれる牧野省三が監督し、1908年に公開された『本能寺合戦』とされる。始まった頃の時代劇は「旧劇」と呼ばれ、歌舞伎や講談の題材を、歌舞伎の演出様式そのままに、芝居小屋ではなくお寺の境内などにて俳優が演じる姿を映画カメラで撮影したものだった。

牧野は、京都の映画製作会社、横田商会社長の横田永之助から依頼を受け、日本初の映画監督として「旧劇」映画の撮影に取り組んだ。翌1909年、岡山の芝居小屋で尾上松之助を見出した牧野は、京都に呼びこばれたのだ。げんじのいしずえ『基盤忠信 源氏礎』にて旧劇デビューさせた。「トンボ松」とも呼ばれた松之助のスピード感ある機敏な動きは喝采を浴び、見得を切る場面で目を剥くポーズが人気を集める。日本初の映画スター「目玉の松ちゃん」の誕生だ。1910年、横田商会は、東京の吉沢商店、福宝堂、M・パテー商会、映画会社三社と合併、日活が設立された。牧野はそこで松之助主演にて数多くの旧劇を監督。なかでも松之助扮する忍術使いがドロロンと消えたり、蝦蟇に変身したりする特撮を使った忍術映画は、全国の子供たちの間で大ブームを巻き起こし、社会問題となるほどであった（写真1）。

近代演劇や西洋映画の影響を受けた牧野は、歌舞伎演出様式がベースの、型にはまった旧劇の改革を試み、よりリアルな映像作りをめざすため、従来の演出を求める日活を離れ、等持院の境内に新たにマキノ等持院撮影所を設立。この時、牧野は子供でも読めるように

名前をマキノ省三に替えた。

そこでマキノは、歌舞伎の舞台上で使われる書割パネルや張りぼての小道具の様式的空間ではなく、高津新古道具店（現・高津商会）が調達してきた実物の道



写真1. 1925年日活『荒木又右衛門』（池田富保監督）での馬と主演の尾上松之助。

具を使った立体的建築セット空間にて、俳優にリアルな芝居をさせることで、映像にリアリティ、本物感を与えることに成功する。また、脚本を作成しそれに従って撮影すること、旧劇における歌舞伎調の様式的な立回り芝居をリアルな剣戟、チャンバラアクションに変えたこと、女形を廃し、女優を起用することなどによって、今に続く時代劇が誕生。これまでにないリアルな映像が大衆の人気を博した。

ご存じの通り、歌舞伎での馬は、舞台の上に本物の馬をあげることはなく、二人の俳優が一つの馬の着ぐるみをかぶり前脚と後脚に分かれて演技を行っている。いちのたにふたばくんき「一谷嫩軍記」や「源平布引滝」などが有名だ。歌舞伎舞台を元に生まれた旧劇でも、はじめは同じように着ぐるみの前後に俳優が入って馬を演じていた。

だが、リアルさを追求する牧野は、馬が登場するシーンでは、人間が入る着ぐるみに代えて、実際の馬を使った。等持院撮影所では、俳優の西郷昇が馬方として劇用馬の手配、調教を行っていた（写真2）。

2. 時代劇映画全盛を支えた馬方

元々、牧野省三は京都千本通り沿いの千本座という芝居小屋の座主だった。

1914年、千本座の下足番、木村勝次郎、売り子のまさ夫婦の間に生まれた政次郎は、4歳の時、牧野が所長を務める日活大將軍撮影所作品『忍術元祖 児雷也』（1918年）にて子役デビューする。牧野が監督し、松之助が主演の忍術映画である。

その後、牧野が日活から独立し、マキノと名前を変えて等持院に撮影所を設立すると、日活時代から牧野に従って仕事をしていた勝次郎夫妻もそこで荷物運びや賄いなど様々な雑用を引き受けた。撮影所近くにあった自宅の1階では、撮影に使う劇用馬の世話もする。また、マキノから下積み時代の阪東妻三郎の世話を頼まれた勝次郎は、1階に馬のいる自宅の2階にしばらく寝泊まりさせ、まさが妻三郎の食事から下着の洗濯まで面倒を見た。

養子に出て高岡姓になった政次郎は、マキノ撮影所が等持院から御室に移っても子役として俳優活動を続



写真2. 映画撮影に実馬が使われた初期のころの作品のひとつ、1928年のマキノプロ『神州天馬俠』。

け、1927年には嵐寛寿郎主演デビュー作『鞍馬天狗異聞 角兵衛獅子』（曾根千晴監督）にも出演した。また、成長と共に父と一緒に撮影所の雑用も手掛けた。馬が好きだった政次郎は、マキノに言われ撮影所にあった馬小屋で、政次郎の父親役も演じた西郷が調教している劇用馬の世話を手伝う。やがてマキノプロダクション御室撮影所の馬方は、父役の西郷から子役の政次郎へと引き継がれた。

1929年に多額の負債を抱えた省三が死去する。省三の妻知世子、長男正博、次男満男が会社を継承するが、撮影所の火災もあり、1931年、経営破綻、解散してしまう。その時18歳の政次郎は、心機一転、嵐山の料亭に入り板前を志した。だが、映画への思い断ちがたく、マキノ撮影所出身のスター嵐寛寿郎が立ち上げた嵐寛寿郎プロダクションに入り、鞍馬天狗が乗る馬の調達、調教係として再び映画界に復帰する。

寛プロ解散後、政次郎は他のスタッフとともに、現在の東映京都撮影所の場所にあった太秦の新興キネマに移った。新興キネマは1942年に戦時統合で誕生した大映に吸収され、大映京都第二撮影所となる。

戦後1947年、東急電鉄総帥五島慶太は、経営する東横映画に製作部門を設立し、大映京都第二撮影所を借りて東横映画京都撮影所として新たに映画製作をスタートさせた。撮影所長に就任した省三の次男マキノ満男の下に、片岡千恵蔵、市川右太衛門らスターを筆頭に省三の庶子である松田定次監督などマキノ撮影所で育った映画人たちが次々に集結、長男正博も加わりマキノの血を引く撮影所が誕生する。1949年、満男は光雄に、正博は雅弘に改名した。しかしまだ、マキノ得意のチャンバラ時代劇はGHQによって制限されていた。

マキノとともに歩んできた勝次郎も、庶務係として東横撮影所に寝泊まりし、千恵蔵や右太衛門のために一番風呂を沸かす。長男の久次郎はスチルマン、次男の政次郎は特機（特殊機械・撮影効果）と呼ばれるカメラ用レールを引いたり、雨降らしや風を吹かせたりする仕事についた。

1951年4月、東横映画は合併して東映が誕生し、太秦の撮影所は東映京都撮影所となる。9月、88歳の勝次郎が逝去した。その月、サンフランシスコ講和条約が締結、翌1952年にはGHQが廃止され、そこから徐々にチャンバラ時代劇が復活に向かう。東映に追い風が吹いた。

その秋、東映京都撮影所にて、市川右太衛門主演の馬賊アクション大作『流賊黒馬隊』2部作が企画され、信州ロケが決まる。撮影の際、政次郎は、マキノプロ時代から世話になって来た松田定次監督からのアドバイスを受けロケ先の信州で馬の調達、世話を行った。ロケ終了にあたり、その中の良い馬を2頭選び、1頭は松田が自費で、もう1頭は東映の経費で購入、日通のトラックに積み京都の撮影所に持ち帰る。政次郎は、東映に頼んで現在の俳優会館北側の国鉄山陰線の線路沿いに馬小屋を設けた。松田から馬の寄贈を受け、再び馬の世話を始めた政次郎は、東映の馬方として馬の手配と調教の専門家となる。マキノ以来の撮影所付馬方の復活だ。政次郎の長男、1939年生まれでこのころ中学生の高岡正昭は、幼き頃から、祖父の勝次郎が寝泊まりする撮影所の四畳半に頻繁に出入りしており、学校の授業もそこそこに、父を手伝い馬の世話を始める。

翌1953年から、待ちに待ったチャンバラ時代劇ブームが起こった。東映が、経営改善を目指し、自社製作映画をすべて自社で配給する方針に踏み切ったことで、京都撮影所制作時代劇の本数が急増する。それに伴い劇用馬の需要も拡大し、世話する馬の数も徐々に増えた。親分肌の政次郎は、後に東映の進行主任として活躍する並河正夫など3人のヤンチャな若者たちを受け入れ、スタッフとして育てていった。

東映が映画収入日本一に躍り出た1956年。東映取締役でマキノ出身のスター片岡千恵蔵らの支援によって、撮影所の北、常盤窪町に1,700 m²の土地に厩舎が作られ、日本で初めての本格的な劇用馬場が誕生した。

昔、紀三井寺競馬場（1909～1988）の森田厩舎で調教に関係していた政次郎は、引退した競走馬などを次々に購入する。それとともに軍隊馬の調教で有名な堀池清六を招き、その指導の下、購入した馬の調教を行った。片岡千恵蔵や市川右太衛門などが騎乗した「朝日号」はおとなしくて賢い馬だった。美空ひばりが購入した名馬「白雪号」や大友柳太朗の馬も養育、調教した（写真3）。

陸軍騎兵出身の堀池は若き日の千玄室に馬場馬術、障害馬術を教え鍛えた先生である。アクションを担当する剣会（東映京都撮影所の殺陣専門集団）の面々のみならず、大友柳太朗、大川橋蔵、丘さとみなど数多くの時代劇スターを指導した。北大路欣也は、『源九郎

義経』(1962年、松田定次監督)主演にあたり、堀池について馬場で集中的に特訓して乗馬の腕を磨く。当時はまだ周りは住宅も少なく、馬場のあった常盤から嵐山の^{ふしはら}釈原堤まで、田や畑が広がる中を何度も遠乗りしたと語っている。『源九郎義経』では、森田厩舎から多くの馬と騎手が参加し、ひよどり越えのシーンなどに出演した(写真4)。

幼いころから馬に親しみ、高校時代には森田厩舎で乗馬や調教を学んだ正昭も、堀池の指導を受け一段と腕を上げる。中村錦之助、東千代之介、美空ひばりなど若手スターの馬を父に代わって担当し、馬の口取りや優れた乗馬技術で乗馬シーンのスタンドイン(俳優の吹替え、代役)を務める。錦之助のスタンドインとして、河野寿一監督『風雲児 織田信長』(1959年)、伊藤大輔監督の『反逆児』(1961年)などの名作で迫力ある乗馬シーンを生み出した(写真5)。

一方、東映社員でもあった政次郎は片岡千恵蔵、市

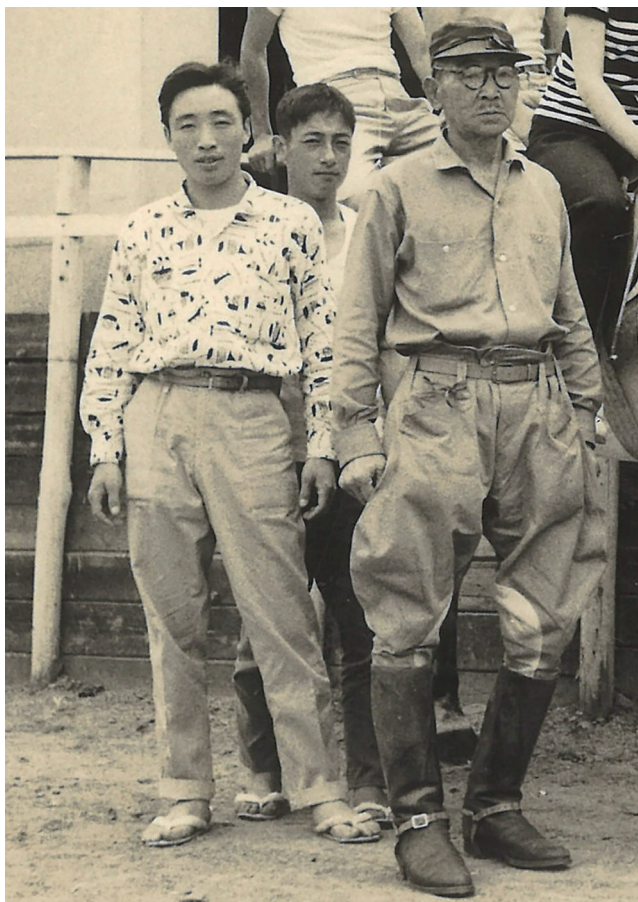


写真3. 多くの東映スターに乗馬指導を行った堀池清六さん(右)と高岡正昭さん(左)。

川右太衛門、月形龍之介などの馬を担当。東映娛樂時代劇全盛期を親子で支えた。

1957年10月、20世紀フォックスの映画『黒船』の日本ロケが下田で始まった。ジョン・ウェイン主演、ジョン・ヒューストン監督の大作だ。下田奉行役で出演する山村聰の紹介で正昭が京都から呼ばれ、馬の手配、世話、俳優の乗馬訓練と介助、スタンドイン、そして自らも乗馬アクションと活躍した。制作陣にその技術が認められ、全国ロケに帯同した正昭は、ハリウッドへも誘われたと言う。

太秦は戦前から日本のハリウッドとも呼ばれる映画の町である。半径1.3kmという狭い地域の中に、これ



写真4. 大友柳太朗とその愛馬。右は大友主演『酒と女と槍』(1960年公開)の台本を持つ内田吐夢監督。



写真5. 「東映」ゼッケンの馬に跨がる中村錦之助、マキノ雅弘監督(中央)と中村賀津雄。

まで13か所もの撮影所が誕生してきた。現在、太秦では東映と松竹、2つの撮影所が稼働しているが、かつては日活、大映、東宝の撮影所もあり、太秦は日本の大手映画会社5社に深い関係を持っている。1950年代後半の映画ブームの時は、太秦で大映、松竹、東映、3つの撮影所がしのぎを削って時代劇映画を制作した。

それら時代劇映画に劇用馬は不可欠であり、それぞれの会社が独自に馬を手配していた。ただ、馬場と劇用馬を有するのは東映のみであり、政次郎は要望があれば大映、松竹へも馬を供給した。増加する馬需要に応えるため、馬場は3回にわたり土地を広げ、最盛期の1962年ころにはおよそ5,000 m²まで拡張し、政次郎親子が養育する馬の数も41頭まで増え、従業員も20名になる(写真6)。

3. 馬方兼テレビ制作会社社長

1960年、東映は第二東映というもう一つの映画会社を設立した。しかし、本数増による作品の質の低下、テレビの普及、レジャーの多様化などで第二東映事業は失敗、翌1961年11月で完全撤退する。また、よりリアルでドラマチックな、血が吹き上がる黒澤明監督の時代劇『用心棒』、『椿三十郎』の大ヒットもあり、これまで大人気だった東映娯楽時代劇映画の観客数がみるみる減っていった。

1962年当時、東映のテレビ時代劇は東京撮影所で撮影されていた。時代劇映画の製作本数の減少に加え、黒澤に対抗できる新たな時代劇の模索もあり、京撮で

は人件費が高いベテラン時代劇スタッフから人件費が安く元気な若手スタッフへのシフト、合理化が始まる。

高岡政次郎は、高岡昌嗣と改名し、その年7月、一念発起、東映を退社し馬場に東伸テレビ映画を設立、自ら社長に就任した。これは、東映時代劇映画の減少で仕事が減ることが予想される、敬愛するマキノ雅弘、松田定次を始めとするベテランスタッフたち、また、養育する劇用馬の今後を鑑みた上での決断だった。

昌嗣は馬方の仕事は続けながら、東映の協力を得て、撮影所のベテランスタッフを人選しテレビ制作への準備を開始する。馬場の事務所2階に稽古場を設け、俳優の育成にも取り組み、太秦天神川添いの元宝プロ撮影所(現在はスーパーの駐車場)を使って撮影することになった。

東伸テレビ第1作は、大阪の朝日放送の番組『織田信長』に決まる。萩原遼、隅田朝二監督、子役時代の信長を伊藤敏孝、成人後を林真一郎の主演にて制作し、11月から放送が始まった。脚本は東映の若手助監督中島貞夫や松竹監督の倉橋良介が執筆した。この作品は高視聴率を獲得し、全52話続くヒットとなる。翌年に第2弾、毎日放送、東映との共同制作で伏見扇太郎主演『戦国大統領』全39話を制作した。

1964年1月には第3弾、東京放送にて、ベテラン深田金之助、錦之助の兄の小川貴智雄(元歌舞伎役者・二代目中村歌昇から本名で映画界に転向)などが監督、林真一郎、山城新伍主演の『白馬の剣士』が始まる。白馬は名馬「白雪号」が務めた。

2月には2年前まで京都撮影所長を務めていた岡田茂が、東京撮影所長から再び京都に復帰し、同時に東映京都テレビ・プロダクションを設立、本格的にテレビ時代劇制作に乗り出す。スタッフの合理化を進める岡田は、時代劇のベテランスタッフをテレビプロや他部署に配転して行った。

東伸テレビでは、続いて第4弾として3月、毎日放送で、松田監督の一番弟子松村昌治が監督、月形龍之介主演の『それからの武蔵』全54話、第5弾10月、東京12チャンネル、松田定次監修、大映の安田公義、東映の井沢雅彦監督、若山富三郎主演『風雲児半次郎』全23話と放送が進む。

11月、『白馬の剣士』第43話の夜間撮影中、「白雪号」が天神川に落ちて事故死、番組が終了するアクシデントに見舞われた。急遽、第6弾として月形龍之介主演



写真6. 建設中の東映俳優会館とNo.2スタジオの前で「高岡騎馬隊」の揃い踏み。

ブラザー劇場『水戸黄門』をスタートすることになる。監督には松田定次、松村昌治、大映のベテラン加戸敏を起用、原作脚本は大御所の依田義賢が担当、松田の弟子で後にテレビのプロデューサーに転進し『仮面ライダー』などを企画した平山亨も八手三郎の名前で脚本に参加、松田の助監督にも付いた。翌1965年4月にはマキノ雅弘監督・依田義賢脚本・中野誠也主演『竜馬がゆく』も始まった。

東映テレビの時代劇は、大物俳優やベテランスタッフが制作し、高視聴率で好評を博していたが、受注に合わない制作費によって赤字が膨らみ、1965年、不渡りを出して倒産する。

制作中の『水戸黄門』は51話から松竹テレビ室が引き継ぎ、また、東映の劇用馬手配は、岸本乗馬センターに代わった。

4. その後の馬方

高岡昌嗣（政次郎）は、倒産後もその場所でしばらくは乗馬場の運営と劇用馬の派遣の仕事は続けていたが、1969年、馬場の土地は東映不動産の常盤団地として開発されることが決まる。そのため、亀岡に土地を借りて馬の施設を移転した。東映馬場には住宅が立ち並び、スターや俳優たちが練習した面影は全く消えてしまった。

1969年から始まった松竹テレビ時代劇、松本幸四郎（初代白鸚）主演『鬼平犯科帳』の馬手配なども手がけたが、東映からの仕事が無くなったことで、養育する馬の数を減らしながら、劇用馬派遣から葵祭や時代祭などのお祭りやイベントへの馬派遣へと仕事を変えた。関西のお祭りの多くは昌嗣が設立した「明馬会」が手配した馬が活躍する。

その後、滋賀県の高島町へ拠点を移した高岡昌嗣は、2000年1月6日に85年の波乱に富んだ人生を終えた（写真7）。

高岡正昭は、1966年に東映を離れた錦之助が1968年に中村プロダクションを設立した時に誘われ入社する。中村プロでは、1968年11月公開の山内鉄也監督・中村錦之助主演『祇園祭』にて製作進行として働き、すべての馬を調達するなど東奔西走した。建設中の新丸太町通りを借り、四条通りに見立ててセットを組み撮影した大作は三船敏郎や高倉健、美空ひばりなど大スターたちが友情出演し大ヒットした（写真8）。



写真7. 高岡政次郎さん（手前）と高岡正昭さん。



写真8. 美空ひばりの愛馬「白雪号」と高岡正昭さん。馬上はひばりの弟の俳優・香山武彦。

神奈川県鶴沼の錦之助宅に住み、そこでおよそ5年間にわたり錦之助と独立プロの苦労を共にする。京都に戻ってからは、生活のためこれまでと全く異なる堅

実なサラリーマン生活に入った

父、昌嗣が亡くなってからは、退職して跡を継ぎ「明馬会」代表として葵祭や上賀茂神社、下鴨神社の祭礼時に馬を手配し、84歳の今も元気に現役で活躍している。

5. 東映京都の顔役

東映では父政次郎は「マサヤン」、もしくは「オオマサ」、正昭は「コマサ」と呼ばれていた。父は演技部演技課に所属し、馬方の仕事の他にも片岡千恵蔵、市川右太衛門の両御大をはじめ、マキノ出身の大物俳優たちの世話をあれこれとしていた。また、巨匠監督の内田吐夢が現場で機嫌を悪くして怒りだした時はすぐさま呼び出された。内田が俳優として過ごしたマキノ時代の昔話をマサヤンが振ると、巨匠の機嫌が直ったという。

マサヤンは警察から地回りまで幅広いネットワークを持ち、撮影所で起こった様々なトラブルを解決した。こだわる監督が撮影で本物の拳銃を使いたいと言い出した時、困った小道具係がマサヤンに相談すると警察に話をつけて実物を借用できたとも聞く。

伝説の馬方マサヤン、まさに東映京都の顔役だった。

文献

- 秋篠健太郎（1977）『阪東妻三郎』毎日新聞社.
- 高橋治（2002）『純情無頼 小説 阪東妻三郎』（株）文藝春秋.
- 水口一夫（1997）「映画の夜明け ～高岡昌嗣さんに聞く～」『ちゃんばら行進曲—春はおぼろで紅頭巾—公演パンフレット』pp. 40-42, 京都四条南座.
- 高岡正昭「京の人 明馬会代表 高岡正昭さん」『京都観光先取り情報誌 京ごよみ』2015年5月号, pp. 2-3, 公益財団法人京都市観光協会.
- 富田美香他（2003）「洛西地域映画史聴き取り調査報告Ⅲ 管家紅葉氏談話」『アート・リサーチ = Art research3』, p. 253, 267, 立命館アート・リサーチセンター.
- 並河正夫（1992）「映画職人芸を語る 馬術」『クロニクル東映』p. 63, 東映株式会社.
- 千玄室「文武両道に育まれる精神」『一服どうぞ 裏千家前家元 千玄室』2022年10月10日8時配信, 産経新聞社.
- 円尾敏郎（2022）『宝プロダクション 東伸テレビ映画 京都太秦の同じ場所に撮影所を造った映画人』Kindle版.
- 円尾敏郎（2023）『馬と共に生きた高岡一族 マキノ 東映京都 愛馬会 明馬会』Kindle版.

ウラジオストク日露大競馬会, 1909 年 (2)

立川健治



立川健治 (たちかわ けんじ)

1950 年佐賀県生まれ、京都大学文学部卒業。富山大学名誉教授。競馬史の著作として『文明開化に馬券は舞う』(2008 年、2009 年度 JRA 賞馬事文化賞)、『地方競馬の戦後史』(2012 年)、『馬券黙許時代』第一部(2023 年 12 月刊行予定、3 書ともに世織書房)。現在、日本近代競馬史研究に従事、メールマガジン「もきち倶楽部」(週刊)で日露戦後から明治末年までの競馬史を「馬券黙許時代」と題して連載中。

1909 (明治 42) 年 4 月以降、9 月開催に向けて準備が進められていたウラジオストク日露大競馬会は、6 月に入る頃には、日程、番組編成、賞金等の情報が国内に広まった。出走馬の頭数確保は目途が立ちそうだったが、問題は渡航者の数であった。賞金などの開催費用の原資は馬券売上、それも日本からの遠征客に大きく依存し、売上を伸ばすためには数多くの渡航者を誘致する必要があったからである。

その渡航を考える者を躊躇させる材料の一つが旅券だった。申請手続が面倒であることに加えて、国内での馬券禁止を受けて政府が旅券を交付しないのではないかと恐れもあった。そこで「鳥港競馬会日本代表横浜支部」は、6 月下旬、懸念には及ばないと広告¹⁾ (図 1)、またウラジオストクの「沿海州馬匹改良共進会」も、旅券不所持でも日本側の代表シー・ダウンの

証明書を携帯するものには「多少の手心を致す」ように「露国関係官庁」と「交渉」、さらに大阪商船のウラジオストク代理店も旅券不携帯の観客の上陸許可について、「露国官憲」との「交渉方」を日本領事館に「願出」していた²⁾。

そして船と宿泊先の便宜を図る準備も進められた。7 月 10 日過ぎには、「鳥港競馬倶楽部日本代表部シー・ダウ」名の「空前壮挙日露大競馬」の告知とともに、「鳥港競馬観覧会」の競馬観覧兼観光船による渡航者の募集広告が各新聞に掲載された³⁾ (図 2)。

一方「沿海州馬匹改良共進会」も、同会副会長マズレンニコフが「当地関係官庁を初め義勇艦隊 (ロシアの民間船会社)」と交渉、義勇艦隊は、「各乗客に対し乗船賃三割引を行」うことを承諾、申込期限は 8 月 14 日だった⁴⁾。さらにウラジオストク市会も、8 月上旬、有力者 3 名を日本人観客歓迎委員に推挙するとともに日本人渡航者に各種の便宜を与えることを議決、ウラジオストクの関係者は「1,000 名以上の吸収」を見込んだ⁵⁾。

このような誘客策が図られるなかで、ウラジオストク領事館事務代理花岡止郎は、7 月 18 日付で、「本国政府に於て当地競馬会に参加する本邦人取締は如何なる方針」をとるのかと「請訓」した⁶⁾。この直前、馬政局は、7 月 8 日付寺内正毅長官 (陸軍大臣と兼務) 名で、外務省に対し、開催も近づいているとして馬匹の輸送、渡航者に関する情報について「帝国領事に於て随時調査報告相成候様御取計相煩度」と「照会」を行っていたが⁷⁾、これを受け外務省は 12 日付で花岡に対して、それらの情報を「回報」するように「申進」した⁸⁾。おそらく花岡は、この「申進」を受けて、上の「請訓」を仰ぐことが必要と判断したのだろう。外務省が花岡の「請訓」を「接受」したのは 27 日付、外

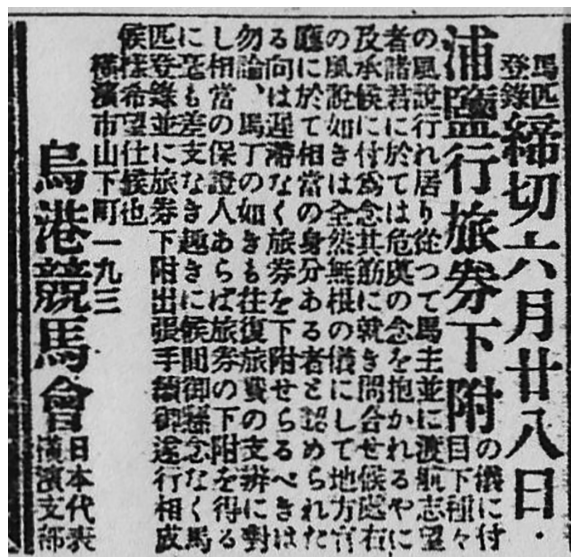


図 1. 馬匹登録日の締切とともに、旅券下付は懸念には及ばないと告知している「鳥港競馬会」『報知新聞』(明治 42 年 6 月 26 日)

空前 日露大競馬

開催日 九月五日 九月八日 九月十二日
 九月十五日 九月十八日 九月十九日

入場料一等(一日)三圓(六日開共通切符)十圓
 二等(一日)二圓(六日開共通切符)六圓
 三等(一日)一圓(六日開共通切符)三圓

馬券種類總て一枚拾ルーブル
 (一)普通馬券 (二)二着配當付馬券 (三)ガラ札
 並に優勝(ハンデキャップ)競走中の三回のみ限り
 一口千圓 一萬ルーブル の大ガラ發賣

●當該豫想勝馬驛市オクシヨン加入權一口十ルーブル

●出場馬匹頭數約百八十頭

右馬匹研究及同好觀覽各位は馬場觀覽の爲め團體觀
 覽船を特設し會費は頗る低廉且つ親切なり渡航者は神戶
 一の宮町三丁目ホテル内馬場觀覽船會社又ハ東京當該時
 三丁目の坂部商店内馬場觀覽船會社又ハ東京當該時
 入場切符持参の方へハ大阪船會社又ハ東京當該時
 阿地旅館持参の方へハ渡航各位は旅行券用紙は御申越次
 當日數を要するに付至急手配の目的は團體船にゆ乘し馬場觀覽と明
 記せし以下附容易なり

神戶市山手通四丁目十三番地

烏港競馬俱樂部日本代表部

シ ー ダ ウ ン

競馬觀覽兼光觀船

會期初中馬港に碇泊し旅
 館に代へ價格低廉によりし
 船に便利なり致致よりし
 船光によりし致致よりし
 港迄各々五十分時間
 港迄各々五十分時間
 港迄各々五十分時間

九月一日秋假得出發同廿三日阿港へ歸發乗員三百名と観る
 日二十圓並等六十圓切七月二十五日希切者ハ左へ申出せるべし明船を呈し
 神戶市三の宮町三丁目百六十番マブター商會内馬場觀覽船會社

図2. 『東京朝日新聞』(明治42年7月13日)

務省が馬政局に判断を仰いだのが8月4日付⁹⁾。馬政局は、8月12日付寺内長官名で外務次官石井菊次郎宛に、国内では馬券売買は禁止されているので「在外官憲」が、「便宜を計るは妥当を欠く」が、「渡航者の多くは実際に於て馬主其他馬事関係者」であるので「別段の取締を加ふるの必要」はないとの判断を伝えた¹⁰⁾ (図3)。外務省は、8月17日付でその旨をウラジオストク領事館事務代理花岡宛に「發遣」した¹¹⁾。

渡航者募集の目標は、ウラジオストク側も含めて、1,000 人。とはいえ鳥港競馬観覧会の船賃、滞在中の宿泊食料等を含む代金は、「並等」90 円、「中等」120 円、「特等」150 円。このツアーでなく個人で行くとなるとウラジオストク便の出発港である敦賀までの鉄道運賃、往復船賃、雑費等で 120 円、15 日間の滞在費 150～60 円、準備しなければならない金額は、最低でも 270～80 円¹²⁾、これに 1 枚 10 円、6 日間 50 レースの馬券代も加わる。ちなみに安田伊左衛門が持参した金額は 3,000 円¹³⁾。参考までにあげておくと、当時、東京朝日新聞の校正係だった石川啄木の月俸は 25 円、衆議院議員の年俸は 2,000 円だった。それに 1 か月間前後、日

本を不在にすることになる、簡単に観戦に行くことができるものではなかった。

鳥港競馬観覧会の申込締切日は、当初7月15日、まず25日、さらに31日まで延期されたが、30日段階で申込者は60余人に過ぎなかった¹⁴⁾。加えて7月31日未明から翌日にかけて現在の大阪市北区の大半が焼失した大火の影響で、関西で渡航を断念するものも出た¹⁵⁾。結局、鳥港競馬観覧会は応募者が少なく観覧船をチャーターすることができなかった。これを受けてのことだろう大阪商船のウラジオストク便の三割引と敦賀までの院線（現JR）の二割引が広告された¹⁶⁾（図4）。ちなみに大阪商船の鳳山丸の船賃片道三等（和食）7円、二等（和食）14円、同（洋食）18円、一等（洋食）30円だった¹⁷⁾。8月下旬、花岡事務代理は渡航者は400～500人位と予測したが¹⁸⁾、実際には300人以下とそれを下回った¹⁹⁾。

出走馬に関しては、当初、180余頭の遠征が見込まれたが²⁰⁾、実際はそれほど伸びず、期限の7月5日までに出走登録したのは抽籤内国産馬19頭、内国産馬26頭、抽籤豪州産馬33頭、外国産馬8頭、計86

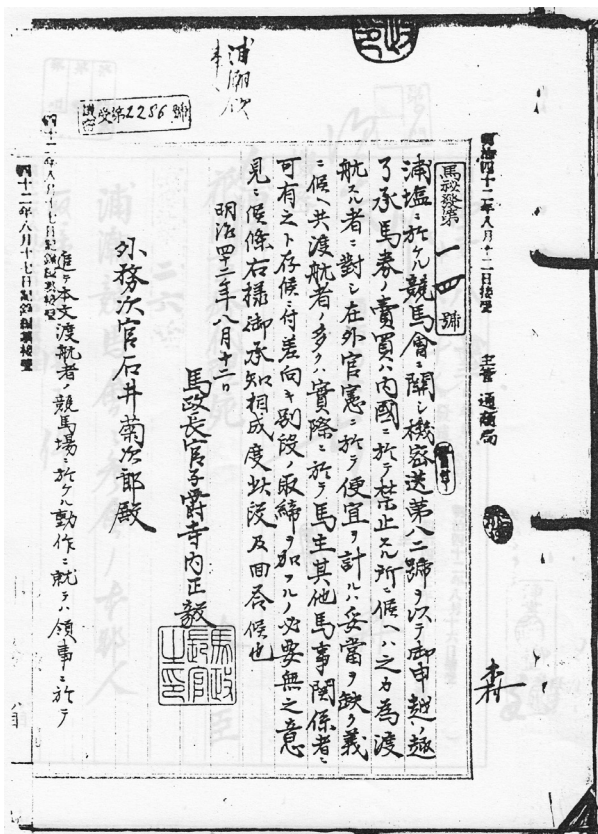


図3. 別段の取締は必要がないとの判断を伝えている「明治42年8月12日付馬政長官寺内正毅より外務次官石井菊次郎宛」『浦塩に於ける競馬会開設關係雜纂』外務省外交史料館蔵

頭²¹⁾、実際に海を渡ったのは計58頭²²⁾。この58頭と騎手20人、「馬丁及人足」80余人は、8月10日頃までにはウラジオストクに到着した²³⁾。到着してみると、馬や厩舎関係者の「浦塩渡航の費用額の如き全然出発前の条件と約束を異にし」、また厩舎など「臨時建設物、設備費」もウラジオストク側の負担という渡航前の話とは異なって「一切本邦側参加者の負担」であることが判明して「一同驚愕」したという。その騎手の一人であった鈴木信太郎（後に日本中央競馬会調教師）は、馬場は素晴らしいと聞いていたが、来てみるとそれは大違い、「ひどい荒地の馬場で草ぼうぼう、土はダンゴみたいにゴロンゴロンしており、日本の常識ではとても競馬場などと言えたしろものではなかった」ので、そこで「仕方なく日本から行った連中が総動員して地ならし作業にとりかかり、1週間泥まみれになってコースを整備する破目になった」、とはいえ、こうして整備した後は、「地質がいいのか雨が降っても上滑りせず、天気が乾き切ってもホコリがたたず、すこぶる上等の

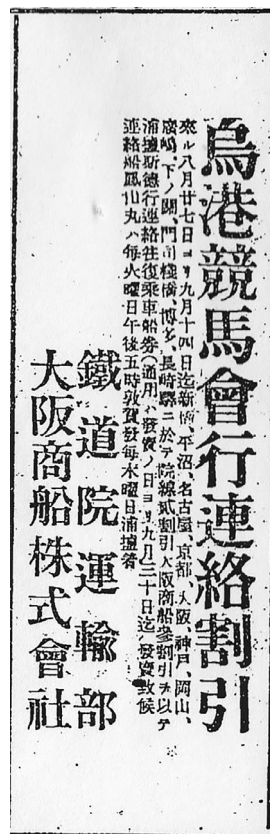


図4. 『大阪毎日新聞』（明治42年8月1日）

馬場になった」という²⁴⁾。こういった実情を踏まえてのことだろう、シー・ダウンの「其行為実に詐欺的」、とウラジオストク領事館事務代理花岡止郎は外相小村寿太郎宛に報告した²⁵⁾。このように開催前に、シー・ダウンの「甘言」の実態が明らかになっていた。だが競馬関係者は、そのまま帰る訳には行かなかった。

そしてその中の一人東京競馬会理事、後に「日本競馬の父」と呼ばれることになる安田伊左衛門は、この開催に賭けていたといってもよかった。東京競馬会は、陸軍省、宮内省、農商務省が積極的に支援して馬券黙許のモデルとして設立された倶楽部だったが、馬券禁止、補助金の削除、競馬法案の廃案という苦境に直面して、安田、加納久宜ら東京競馬会の首脳は、同会、というより日本の競馬が生き残る道を探していた²⁶⁾。そこへ浮上してきたのが「浦塩競馬会」の話。安田の回想によれば、まずその歴史を幕末までに遡る横浜の日本レース倶楽部に競馬会引き受けの話が持ち込まれたが、同倶楽部がそれを断ったことで、安田は、「加納

子爵と相談の上、都合宜しければ浦塩競馬を引受け、馬券復活の時季まで、此の収入に依って命繋ぎしをなしたならば好都合ならむと、幸いシー・ダウン氏の引受け開催せられる浦塩競馬を視察調査することの相談をなし、加納名誉会長から浦塩会長宛の添書を懐中し、渡航することに決した」という。さらにウラジオストクに赴く前に、ソウル、奉天、ハルピンなどを訪れ、当地で馬券発売を行う開催の可能性を探ってもいた。安田の弁によれば、「大いに海外に生きる道を求め」ようということだった。安田は、このなかで奉天に期待をかけたが、このときの計画は実現にはいたらなかった。

註

- 1) たとえば、広告「鳥港競馬会」『報知新聞』明治42年6月26日
- 2) 明治42年7月20日付在浦潮領事館事務代理領事官補花岡止郎より外務大臣伯爵小村寿太郎宛「浦潮競馬会に関し続報の件」『浦潮に於ける競馬会開設関係雑纂』外務省外交史料館蔵。ウラジオストクの表記に関して、この『雑纂』では浦潮も使用されているが、この『雑纂』のファイル名にしたがって浦潮に統一した。なお以下、この『雑纂』については外務省外交史料館蔵を略す。
- 3) たとえば、広告「空前壮挙日露大競馬」『東京朝日新聞』明治42年7月13日
- 4) 同上。
- 5) 明治42年8月25日付在浦潮領事館事務代理領事官補花岡止郎より外務大臣伯爵小村寿太郎宛「浦潮競馬会に関し続報の件」『浦潮に於ける競馬会開設関係雑纂』。
- 6) 明治42年7月18日付在浦潮領事館事務代理領事官補花岡止郎より外務大臣伯爵小村寿太郎宛「浦潮競馬会に干し請訓の件」『浦潮に於ける競馬会開設関係雑纂』。
- 7) 「明治42年7月8日付馬政長官子爵寺内正毅より外務次官石井菊次郎宛」『浦潮に於ける競馬会開設関係雑纂』。
- 8) 明治42年7月12日付小村外務大臣より花岡事務代理宛「浦潮競馬会に出場する本邦馬匹の輸送状況取調方に関する件」『浦潮に於ける競馬会開設関係雑纂』。
- 9) 明治42年8月4日付萩原外務省通商局長より馬政局長官宛「浦潮競馬会に関する件」『浦潮に於ける競馬会開設関係雑纂』。
- 10) 明治42年8月12日付馬政長官寺内正毅より外務次官石井菊次郎宛「馬秘発第一四号」『浦潮に於ける競馬会開設関係雑纂』。
- 11) 明治42年8月17日小村外務大臣より花岡事務代理宛「浦塩競馬会に参会の本邦人取締方に関する件」『浦潮に於ける競馬会開設関係雑纂』。
- 12) 「日露合同浦塩競馬雑観 日本は馬劣り騎手優る 渡航者は殆ど皆失敗 浦塩に6万円の置土産」『時事新報』明治42年9月27日。
- 13) 安田伊左衛門「競馬夜話」長森貞夫編『東京競馬会及東京競馬倶楽部史』第一巻、東京競馬倶楽部、昭和16年、所収、525頁。
- 14) たとえば、広告「競馬観覧兼観光船」『大阪毎日新聞』明治42年7月9日、広告「競馬観覧兼観光船 鳥港競馬観覧会」『神戸新聞』明治42年7月11日、「浦塩競馬観覧船」『神戸新聞』明治42年7月24日。
- 15) 「浦塩競馬前景気」『万朝報』明治42年9月2日。
- 16) たとえば、「鳥港競馬会行連絡割引」『大阪毎日新聞』明治42年8月1日。
- 17) 『浦塩航路案内』大阪商船株式会社、明治41年、6～7頁。
- 18) 明治42年8月25日付在浦潮領事館事務代理領事官補花岡止郎から外務大臣伯爵小村寿太郎宛「浦潮競馬会に関し続報の件」『浦潮に於ける競馬会開設関係雑纂』。
- 19) 「日露合同浦塩競馬雑観 日本は馬劣り騎手優る 渡航者は殆ど皆失敗 浦塩に6万円の置土産」『時事新報』明治42年9月27日。
- 20) たとえば、「凄まじき浦塩競馬会の前景気」『報知新聞』明治42年6月20日。
- 21) 「鳥港競馬と馬匹 日本よりの輸送の分」『横浜貿易新報』明治42年7月5日。
- 22) 明治42年7月29日在浦潮領事館事務代理領事官補花岡止郎より外務大臣伯爵小村寿太郎宛「浦潮競馬会馬匹の輸送その他に関する件」『浦潮に於ける競馬会開設関係雑纂』、「浦塩の競馬会 競馬界の盛衰は塞翁の馬」『やまと新聞』明治42年8月20日。
- 23) 以下、出発前の約束と異なって一同驚愕したことまでに関しては、明治42年8月25日付在浦潮領事館事務代理領事官補花岡止郎より外務大臣伯爵小村寿太郎宛「浦潮競馬会に関し続報の件」前掲『浦潮に於ける競馬会開設関係雑纂』。
- 24) 『競馬に生きた 鈴木信太郎』鈴謝会、昭和47年、67～68頁。
- 25) 明治42年8月25日付在浦潮領事館事務代理領事官補花岡止郎から外務大臣伯爵小村寿太郎宛「浦潮競馬会に関し続報の件」『浦潮に於ける競馬会開設関係雑纂』。
- 26) 以下、このことに関しては、前掲安田「競馬夜話」518～520頁。

対州馬の歴史と現在の取り組み

吉原知子



吉原知子（よしはら ともこ）

対馬市島おこし協働隊（地域おこし協力隊）。都心で7年間小動物臨床獣医師として勤務後、念願だった在来馬との暮らしを夢見て対馬へ移住した。傷病馬治療や乗馬指導、普及啓発まで幅広く行う。「対州馬とはどんな馬なのか」をテーマに、遺伝的・歴史的調査を専門家と共同で行い、対州馬の価値向上を目指している。

はじめに

対州馬（たいしゅうば）は長崎県対馬原産の日本在来馬です。日本には江戸時代まで各地名がつけられた馬が多く存在していましたが、1900年代前半に軍馬生産を目的とした馬匹去勢法及び種馬統制法が制定され、ヨーロッパ品種の種牡馬を用いることが法律で定められた結果、ほとんどの在来馬は絶滅しました。現在、日本在来馬は対州馬を含め8品種のみ登録されていますが、モータリゼーションの結果、在来馬本来の役割である運搬に用いられなくなり、そのほとんどの存続が危ぶまれています。

対馬は国内で朝鮮半島に最も近い離島であり、古くから交易と国防の島として日本史上大きな役割を果たしてきました。対馬島内に残る記録は江戸時代の対馬藩主である宗氏（そうし）関連資料が主ですが、続日本紀や、朝鮮の資料に時折対馬産の馬の記述があり、古くから馬がいた島だったようであり、国内でも比較的早い時期に馬が渡来したエリアではないかと考えています。

近年、岐阜大学と競走馬理化学研究所の協力により、対州馬の遺伝子解析を行うことができました。少しずつですが、活用に向けた取り組みも行っています。

本稿では対州馬の歴史と、近年の研究や取り組みをお伝えしたいと思います。読者の皆様にとって、対州馬に興味を持つきっかけとなりましたら幸いです。

対州馬の特徴

体高は約120～130 cmであり道産子・木曽馬に比べると小型ですが、在来馬中最小の野間馬よりは大きく、日本在来馬の中では中間ぐらいの大きさです。全体的にずんぐりむっくりした体型で、サラブレッドのような美しさはありませんが、丸みを帯びた親しみやすい外貌です。また、穏やかでフレンドリーな性格であり、

我々人間との交流を楽しんでいるように見えます。強く固い蹄を持ち、サラブレッド等と異なり蹄鉄を装着しません。対馬は斜面の急な山道が多く、それに適応した結果なのか、駄馬（だば・運搬用の馬）としての経験がない現代の対州馬達も、坂道を苦にしません。毛色は栗毛系（杢栗毛、栗毛）、鹿毛系（黒鹿毛、鹿毛）、青毛の3系統が確認でき、鰻線（背の正中にある黒い線）を持ちます。大正、昭和期にアングロアラブ、トロッターといったヨーロッパ品種の種牡馬が導入された影響か、時折白斑を持つ馬も確認されます。しかし、対馬で使役する上で、対州馬本来の小柄で蹄の強い馬が好まれ、そういった馬同士での交配が続けられたと考えられ、大幅な形質の変化はないのかもしれません。



図1. 対州馬の外貌。サラブレッドに比べると頭部が大きく、短く頑丈な肢をもちます。写真の留希（去勢牡・13歳）は少し頑固ですが素直な馬であり、子ども達に乗馬の面白さを教えてくれます。

対馬と馬の歴史

1. 馬はいつから対馬にいたのか

対馬で最初の馬について考える上で、「日本に馬が最初に渡来したルート」は非常に重要な情報です。遺伝学的研究では、戸崎氏（2019）は日本在来馬のルーツはすべてモンゴル在来馬であり、さらに日本8在来馬のうち、野間馬と対州馬が、比較的モンゴル在来馬と遺伝的に近縁であると報告しています¹⁾。考古学では、西中川氏（1989）は、国内で最も早期に馬骨や馬具が出土するのが九州北部であり、弥生～古墳時代と報告しています²⁾。他の研究者達の報告も、4～5世紀とするのが多くみられます。

以上のことから、古墳時代に朝鮮半島から日本へ、九州を経由してモンゴル在来馬を祖とする馬が伝わった（単一起源説）のではないかと考えられています。

対馬は北九州エリアの中でも最も朝鮮半島近くに位置しているため、モンゴル在来馬の祖先集団が日本全国に広がる際に、対馬を経由した、もしくは九州に渡来した馬が対馬にももたらされ、当時の馬の遺伝子が対州馬にも受け継がれていると考えてよいかもしれません。

対馬の馬が登場する最古の文献は続日本紀であり、

739年に対馬の馬が大宰府を通して天皇に報告されたと記されています³⁾。これが正しければ、上記の研究と併せて考えると、馬が対馬に渡ってきたのは4～8世紀と推論されます。今後、対馬から馬骨等直接的な遺物が出土すれば、より詳細について分かってくるかもしれません。

2. 中世・近世の対馬の馬

中世の朝鮮の記録にも、対馬の馬について記載があります。「李朝実録」には1399年以降、対馬島主である宗氏が度々朝鮮へ馬を贈ったと記されています。また、1471年に朝鮮の官人である申叔舟によって著された記録「海東諸国紀」は、対馬島について叙述した箇所、対馬島内に島主宗氏の牧（まき）が4か所あり2,000頭余り飼養していたと記しています⁴⁾。

江戸時代になると、対馬藩主である宗氏（そうし）関連資料中に記録が確認できます。正徳4年（西暦1715年）の記録である「御牧馬并ニ御預ケ馬帳」には対馬藩所有の馬や、牧についての記録が残されています。宗氏関連資料は膨大な量が残されているため、今後調査が進み、対馬の馬についてより詳細な情報が分かってくることを期待します。



図2. 1978年、厳原町佐須瀬の対州馬（仁位孝雄氏撮影・提供）



図 3. 1978 年，巖原町椎根の対州馬（仁位孝雄氏撮影・提供）

3. 明治～昭和期の対州馬

対馬は約 90% が山地であり，標高は低いものの傾斜が険しく，物資輸送の際には対州馬が用いられていました。一部の集落では農耕馬としても使役されていました。

特に活躍したのが炭焼き業であり，山中で倒した木を運搬できるサイズに切りだし，馬の背にのせ，炭焼き釜へ運び，できた炭を自宅や町へ運搬していました。

林田（1972）によると，対馬内の馬飼育頭数（対州馬以外の馬も含んだ数字）は明治 37 年に最も多く 4,444 頭でした。日本でのモータリゼーションは 1960 年代ですが，1972 年の対馬内の馬飼育頭数は 499 頭まで減少しました³⁾。

現在の取り組み

対州馬が最も減ってしまったのは 2012 年のことであり，29 頭でした。その後対馬市の努力により島内外合計 55 頭に増加しましたが，依然として絶滅危惧品種であることには変わりありません。

私は総務省が地方定住を目的として実施している，地域おこし協力隊制度（対馬では独自に対馬市島おこし協働隊と命名）を利用して，2021 年 5 月から対馬市

に勤務しています。現在の取り組みとして，研究活動と普及啓発活動について紹介いたします。

1. 研究活動

1973 年に日本馬事協会が対州馬の実態調査を行い，血統登録を開始して以来，対馬市と対州馬保存会は仔馬が生まれた際に登録申請を行ってきました。希少品種では，血統登録が不正確だと容易に近親交配が起こりえるため，現在の登録が正確であることが非常に重要です。そのため，サラブレッドの親子判定に利用されるマイクロサテライト DNA 解析（ゲノム上に存在する反復配列）を島内外にいる 52 頭の対州馬（2014 年，2021 年の 2 回でサンプル採取）で実施しました。このうち，血統登録上，親子関係にある 33 組（片親と子の組み合わせも含む）で親子判定を行い，矛盾がなく，血統登録が正確に行われていることが確認できました⁵⁾。毎年繁殖ペアを考える上で，血統登録が信頼できることの重要性を実感しています。マイクロサテライト DNA 解析は，集団内の遺伝的多様性モニターにも利用できるため，繁殖計画が適正であるかの確認にも役立てていきたいと考えています。

2022 年は，遺伝学的に裏付けされた対州馬の特徴を知ることを目的に毛色，歩様，体型，性格に関する原



図4. 子ども乗馬教室（対州馬少年倶楽部）の外乗中の様子。



図5. 子ども乗馬教室（対州馬少年倶楽部）で、仙台とのオンライン交流中の様子。

因遺伝子を解析し、第35回ウマ科学会学術集会で報告しました⁶⁾。

2. 普及啓発活動

対馬に移住して驚いたのは、馬と暮らしていた経験があるのは70代、80代の高齢者のみで、ほとんどの世代が対州馬を知らないことでした。在来野生動物のツシマヤマネコに関しては、長年の郷土教育の結果ある程度の認知度を得ています。対州馬もそうあるべきだと思い、飼育調教スタッフと協力して対州馬を連れて小中学校に出向き、ふれあいを通して対州馬自体の可愛さや、歴史教材としての面白さを伝えています。

また、より対州馬の魅力を伝えたいと考え、対州馬

少年倶楽部という名称で子ども乗馬教室を実施し、乗馬から対州馬の歴史まで、幅広く教えています。少年倶楽部の中には、「将来は対州馬の調教師になる！」と言っている子もあり、今後の対州馬の未来づくりのためにも大切にしていきたい活動です。子ども達が家族内で対州馬のことを話すことで、家族全員が興味を持ってくれるのもありがたく感じています。

対州馬少年倶楽部では、対州馬が動物園にいることをご縁に、宮城県仙台市にある乗馬倶楽部とのオンライン地域間交流を行っています。今夏に子ども達と仙台訪問を予定しており、対州馬に関わっていると楽しいことがある、と思ってもらえたら嬉しいです。

おわりに

在来馬の活用と保存には多くのシビアな課題が横たわっており、楽観的にとらえることはできません。しかし、だからこそ当事者自身が楽しく、興味のあることを発信することが大切だと、在来馬に関わる先輩方から学ぶことができた3年間でした。

対州馬をキーワードに、古老への聞き取り調査から遺伝解析等、様々なことを経験するなかで、「対州馬とはどんな馬か」という問いに、答えが出たと思うと、また新たな角度から疑問が生まれ、興味が尽きることがありません。対州馬から広がる知の世界を、今後も対馬の子ども達、興味を持つ学生や専門家の方々とさらに深く、共有していければと思います。

文献

- 1) Tozaki, T. et al. 2019. Genetic diversity and relationships among native Japanese horse breeds, the Japanese Thoroughbred and horses outside of Japan using genome-wide SNP data. *Anim. Genet.* 50: 449-459.
- 2) 西中川駿. 1989. 古代遺跡出土骨からみたわが国の牛、馬の起源、系統に関する研究—とくに日本在来種との比較—, 第107回 日本獣医学会講演要旨集.
- 3) 林田重幸. 1972. 対馬の在来馬 対州馬. 日本中央競馬会, 東京.
- 4) 日野義彦. 1989. 対州馬. 対馬民俗歴史資料館報第12号.
- 5) Yoshihara, T. et al. 2022. Genetic diversity analysis and parentage verification of Taishu horses using 31 microsatellites. *J. Equine Sci.* 33: 63-69.
- 6) 吉原知子. 2022. 対州馬の特徴に関する遺伝的な指標. 第35回日本ウマ科学会講演要旨.

セル・フランセの市場価値向上に努める 仏馬事業界の取り組み —仏専門家を招聘した能力検定講習会に 参加して—



池田 収 (いけだ おさむ)

1941年3月佐賀県生まれ。1967年東京農工大学大学院農学研究科(修士課程)を修了,同年4月農林省(現農林水産省)入省(農業経済職)。本省各局庁,経済企画庁,国土庁等で勤務し1997年4月統計情報部企画調整課長を退職。関係団体勤務を経て2007年同法人の解散に伴い清算して現在に至る。学部生時代馬術部に所属。

池田 収

はじめに

新型コロナウイルス感染者数の拡大のため,史上初めて1年延期されたオリンピック(東京2020)ではあったが,目立った混乱もなく,内外からは概ね肯定的な評価が得られた。馬術競技では,総合馬術競技個人戦で戸本一真選手とヴィンシー JRA(セル・フランセ)が4位(史上最高位),障害飛越競技個人戦で福島大輔選手とチャニオン JRA(OS:国際オルデンブルグ)が6位(戦後最高位)などの活躍があり,無観客ではあったが乗馬愛好者にとっては極めて印象深い競技会となった。

また,大会を運営面や馬のウェルフェア,獣医事,ドーピング検査,装蹄支援など裏方として支えてきた関係者の報告や出場選手の座談会が本誌に掲載され,それを読むと,1964年東京オリンピック以来の最大規模の国際馬術競技大会から得られた資産(アセット)が多方面にわたっていることを感じさせられた。

オリンピック終了後,日を置かずして内国産スポーツホースの改良増殖につき関係者で話し合う機会が持たれたことは自然な流れであった。しかし,内国産スポーツホースの評価基準,種牡馬の登録制度,市場取引との連動などについて関係者の意見・立場の隔たりがみられた。こうした中,一般社団法人日本スポーツホース協会(沖崎誠一郎会長)は,日本の馬術界と縁の深い,セル・フランセ協会から専門家を招聘して,「仔馬・若馬・新馬能力検定仕様」の講習会を開催した。以下,当日の講習内容を中心に,概要を紹介したい。

1. 講習会の概要

開催日時:令和4年10月27日(木)午前9時～

開催場所:日本中央競馬会(JRA)

馬事公苑宇都宮営業所

午前 講習(会議室)

午後 実習(屋内馬場,11頭)

講師:ブノワ・シェーニュ氏(Benoit Chaigne)

セル・フランセ協会テクニカルディレクター

主催:一般社団法人日本スポーツホース協会

事業助成:日本中央競馬会(以下,適宜JRAという)

2. 講習会(座学:午前9時～12時,於 会議室)

沖崎会長は開会挨拶に先立ち東良弘一氏(元五輪障害馬術競技選手,元同監督)が先日逝去されたことを告げ,その場の全員で黙とうを捧げた。挨拶の中で,内国産馬の正しい評価の実現が協会立ち上げの目的であること,今日は実馬を使って実演すること,今後内国産馬が検定を経て競技馬に育成され,その後ゆくゆくは内国産スポーツホースの「種馬」登録を実現させたいことなど抱負を述べた。次に,講師であるブノワ・シェーニュ氏の紹介があり,講習会が始まった。講習内容は,プロジェクタースクリーンに投影され,同時に資料が配布された(写真1)。

テーマは,「障害競技馬の生産と育成—誕生からスポーツホースになるまで—」となっており,セル・フランセの特徴である障害競技馬を中心としたものであった。当初の企画では,2日間の予定で,他に「セル・フランセ/スタッドブックの組織」^(注)についても準備されていた。



写真1. 挨拶する沖崎会長とシェーニュ氏（10月27日午前）
場所：JRA 馬事公苑宇都宮営業所 会議室（写真：一般社団法人 日本スポーツホース協会提供）

〈セル・フランセは日本人選手によく選ばれている〉

初めに、現在活躍中の日本人選手がセル・フランセに騎乗している事例を示し、関りが深いことを紹介した。障害飛越競技では、佐藤英賢選手とサフィアデラック JRA ら5人馬を、また、総合競技では、戸本一真選手とヴィンシー JRA ら9人馬を挙げた。

（1）セル・フランセの生産と選抜プログラム 1

〈セル・フランセが目指す一般的特性とは〉

次の3つを挙げた。

- ・ジャンプ能力であり、具体的にはスピードと人（乗り手）に対するリスペクト（従順さ、理解力）を養うこと
- ・顧客はアマチュアが中心なので、容姿、乗りやすさ、精神的、行動的に優れた馬を作ること
- ・長くスポーツホースとしてのキャリアを続けることができること、すなわち強い馬を探し、集中的なスポーツトレーニングに耐えうる馬を目指すこと

〈セル・フランセの生産と選抜におけるスタッドブックの役割〉

セル・フランセ／スタッドブック（血統登録台帳）は、3つの機能を持つとした。

- ・仏農務省からスポーツホースの選抜機関として承認されており、需要に応じてセル・フランセの生産と選抜を方向付けること
- ・セル・フランセの生産者（Breeder）を代表し、特別なサービス（技術的なアドバイス、トレーニングな

ど）を提供すること

- ・国内および海外におけるセル・フランセの普及活動を行うこと

〈スタッドブックの運営と選抜プログラム〉

スタッドブックの運営は、6分野から選出された運営委員 50 名（任期 4 年）で構成されている。

まず、セル・フランセの生産者 30 名、種牡馬の所有者 6 名、ユーザー代表 7 名、地域協会代表 4 名、セル・フランセの所有者 2 名、セル・フランセサポーター 1 名であり、生産者と種牡馬の所有者で 7 割を占める。

運営委員会は、4つの委員会で構成され、技術委員会と判定委員会の役割が重要である。

- ・経営と財務委員会
- ・販売促進と情報発信委員会
- ・技術委員会：選抜規則の責任者であり、スタッドブックの「法」である。遺伝子政策を担当（判定委員会に指示を出す）
- ・判定委員会：馬の専門性・特性を担当し判定（年間評価）

最終的には、技術と判定の両委員会は、一般的な方針、すなわち主たる繁殖目的に応じて種牡馬の選抜規則の発展に関する決定を行う。

〈セル・フランセにおける選抜目標〉

セル・フランセの選抜の優先目標は、全てのレベルでの障害馬術競技および総合馬術競技でのパフォーマンスを上げることである。また補足基準として次の4つが挙げられる。すなわち形態学、ロコモーション（移動や動き）、振る舞い、健康、である。

〈選抜—いくつかの遺伝的基盤〉

選抜とは、良い馬をより良くするために選抜することである。2つの可能性がある。

- ・繁殖牝馬の選定＝これは生産者が担当する（影響はかなり限定的である。1頭の牝馬は最大15頭の仔馬を生む）
- ・種牡馬の選定＝スタッドブックを活用（多数の産駒を残すことが可能。ただし「遺伝子汚染」のリスクに注意する必要がある）

〈障害競技用種牡馬の選定における2つの可能性について〉

① スポーツ成績の良い種牡馬を選ぶことの得失

コンクールの成績で種牡馬を決めると、9歳、10歳まで待つ必要がある。そして非常に優秀な種牡馬であ

ることを確かめるためには、産駒が成長し競技に出る4歳、5歳、6歳までさらに待つ必要がある。それでは種牡馬は15歳になるまで、本当に良い種馬かどうかはわからないことになる。

② 若い種牡馬を選ぶことのメリットと注意点

- ・世代間インターバルを短くするため、できるだけ若いうちに選抜できるよう努める
- ・遺伝子の裾野を広げるため、多くの若い馬の中から種牡馬を選ぶ
- ・このためには、より精密な判断基準を多く使用する必要がある

以上を考慮し、若駒を種牡馬として選抜するため、定期的に検定しチェックして、若いうち（2歳～4歳）に「種」としての良馬を見つけることが必要になる。

〈障碍競技馬に求められる資質とは〉

セル・フランセの育成において、次の3つの資質が重視されている。

① ジャンプ能力

競技で勝つためには、現代の馬は強く、速く（走路でも障碍飛越に際しても）、そして乗り手に非常に従順であることが大切。

② 商業的な資質

馬は売買される運命にあることから、見映えのする、シックで（頭がいい、毛並みがいい）、乗りやすく（ライダーの8割はアマチュア）、気質や動作に非常に優れた馬を生産することが必要。

③ スポーツ寿命の長さ

健康な馬であること、つまりは抵抗力があることである。

〈結論：セル・フランセの理想とする馬づくり〉

セル・フランセ協会関係者は、より高く跳び、より速く、より強い馬を探している。

2歳、3歳、4歳の若駒にこのような資質を見出すには、どうすべきか？ 3歳馬を観察することで、将来の資質を予測することができるかを試みる。次のような観察ポイントが重要である。

- ・コンフォーメーション：馬がジャンプするための体型を備えているか
- ・ロコモーション：障碍飛越馬に最適な動作としての速歩、駢歩であるか
- ・自由飛越：馬の将来の飛越力を予測する要素として
- ・健康：獣医師の意見を聞く（写真2）



写真2. 座学講義（10月27日午前）

場所：JRA 馬事公苑宇都宮営業所 会議室（写真：一般社団法人 日本スポーツホース協会提供）

(2) スポーツパフォーマンスの評価の原則、テストと評価表—プログラム2

〈若駒を評価するためのツールが作られている〉

この評価ツールは、生産者と獣医師との共同作業で得られたものである。

① コンフォーメーションの3つの分野での評価割合と最終スコアでのウエイト

- ・馬体の構造 40% いわば「エンジン」
- ・肢 30% いわば「歯車」
- ・全体の印象 30% 見た目、シック

最終スコアの45%または40%

② 歩様（歩き方・歩法）の3つの分野での評価割合と最終スコアでのウエイト

- ・速歩 25% 跛行がないかを確認するため
- ・駢歩 50% 飛越のための歩様
- ・常歩（Pas） 25% 駢歩の体型構造と運動の後の動作確認

最終スコアの20%

③ 自由飛越（または騎乗して）の4つの分野での評価割合と最終スコアでのウエイト

- ・飛越前と飛越後の姿勢 25%
- ・筋肉、強さ 25%
- ・スタイル（前脚、トップライン、後脚）25%
- ・行動（意志、知性、血）25%

最終スコアの35%または40%

以上の3つの異なる分野（parties）をどう評価するか。まず、①コンフォーメーション（構造）については、バイオメカニクス（生体力学）の原理に基づく動作についての理解が必要である。ポイントは、2つのセグメント（骨）、滑車（関節）、エンジン（筋肉）である。そこで、

- ・長い筋肉と乾いた関節を備えた長いレバーアーム（注：左右の肩関節と肘関節、左右の股関節、膝関節、足根関節＝飛節）を探すことになる
- ・また、関節は2次元で動作する必要がある（環椎を除く）
- ・さらに、節は、真っ直ぐになっていること（外股や内股でないこと）

次に②の歩様（歩き方・歩法）のうち、速歩、駢歩＝alluresについては動作の柔軟性（横方向や水平方向）とともに馬体のエネルギー、素早さ、力強さ、推進力に着目している。特に、この10～20年に高い飛越能力が求められているが、障害競技コースが鋭角にデザインされることが多く、飛越後のカーブなどへの対応（柔軟性）が求められている。〔この後、自由飛越の馬体に骨格を重ねた絵を描写した動画など跳躍力の詳しい図解が説明されたが、ここでは省略する〕

〈セル・フランセの5つの判断基準〉

若い馬の体型や動作を見るとき、次の5つの判断基準を大事にしている。

- ・機能的動作確認：機能への適性、セグメント、レバーアーム（前掲参照）の重要性、肢関節の開閉角度
- ・対称性（バランス）と健康：馬体の各部分の整合性（バランス）、変形へのペナルティ（弱体化し、運動寿命にリスク）
- ・識別：外観。シックで存在感があるか
- ・馬体の左右対称性（シンメトリー）：馬体は左右対称の軸があること
- ・力量、パワー、エネルギー：ほっそりした体型（silhouette élancée）で馬幅よりむしろ長い筋肉かどうか、活力に満ち溢れ、敏捷さ、「爆発」する能力（緩慢な動作やいい加減な動作は禁物）

〔質疑応答〕セル・フランセの育種目的が障害馬と総合馬のようだが、馬場馬は作らないのかとの問いに対し、今回の講話の対象としていないが、コンクールでは障害飛越競技が80%、馬場馬術競技10%、総合競技10%の割合である。馬場馬術用馬の選抜については、

これに関心を持つ生産者が出てきて、10年位前からドイツ馬を用いて改良選抜を始めている、とのことであった。

また、若駒の育成に関する質問には、血統25%、飼育（餌の内容など）25%、トレーニング50%位のウェイトで特質を見出している、とのことであった。また、選抜を続けても、10～20年位経過しないと、血統の影響は判別しにくいとも述べた。

3. 自由飛越の実施と評価法について

〈馬場の配置、人員および実施要領〉

馬場の形状は、長さ42 m、幅18 mで、数個の障害を飛越後に馬が埒に沿って駢歩でコーナーを円滑に回ることができるように作る。ここに障害を2～3個設置。馬場内での自由飛越では、リーダー1人とアシスタント6人で行う。実施する際のポイントは次のとおり。

- ・バーの高さは60 cm位から始める
- ・飛越後も止まらないよう駢歩を続けさせる
- ・飛越の評価は、まず飛越前のバランス感覚（飛ぶ準備）をみる
- ・自由飛越は、年齢と性を分けて実施する。2歳の牝、3歳の牝、2歳の牡、3歳の牡、スポーツホース3歳の障害馬、スポーツホース3歳の総合馬

また、評価のためには、若い馬が理解しやすいように、障害飛越は7段階に分けて行う。

〈自由飛越の評価について〉

自由飛越の評価については、表1の4つの項目を、各々1から20までの点数で評価する。各項目の評価基準は、各々3視点が考慮される。各項目の点数は、同じ比重が与えられ総合評価される。

さらに（種馬の）承認委員会の審査表の項目では、表1の評価項目に加え、全体的な印象と駢歩（1. エネルギーグッシュに自ら推進する、2. バランスをとって立つ、3. ゆったり）が加わる。

〈3歳牡からは騎乗しての審査〉

3歳牡からは騎乗しての検定を行う。実際では50頭位集めて、騎手が10日間チェックする期間がある。この段階で、どの程度の競技レベル（例えば、オリンピック級）に適用可能かどうかを判断する。この場合は、オリンピック選手を呼んで判断してもらう。時期は、毎年12月に行い、インターネットで直接見ることができる。

表 1. 自由飛越の評価表

馬名と 番号	項 目	1 から 20 の点数	基 準	備 考
	飛越に際してのバランス (障碍の前後) 25%		1. 自ら推進する 2. 立つ 3. 最初に準備する	
	障碍に関する才能 25%		1. 後部の推進力 2. 馬体を伸ばす 3. 軌道あり (障碍をカバー)	
	飛越姿勢 25%		1. き甲が上がる 2. 膝を上げる 3. 飛越の明確さ	
	行 動 25%		1. エネルギッシュ 2. 敬意を示す 3. うまくやりたい (意欲)	

資料：2022 セル・フランセ 繁殖コンクール審査表

〈スタッドブックの審査委員会〉

まずスタッドブックの審査委員会に所属する審査員団は、セル・フランセのイベント期間中、仔馬、2歳馬、3歳馬、繁殖牝馬、種牡馬の全ての馬について技術的専門的知識を持ち、また責任を負う。

審査員は、次のようにして資質向上に努められている。

- ・審査員には昇格試験が設けられている
- ・審査員は少なくとも2年に1度、研修を受ける。3種のトレーニング（初期トレーニング、アドバンスト・トレーニング、コンパニオン・トレーニング）があり、経験豊富な審査員の下での現場研修
- ・種牡馬を評価するのは、ナショナル審査員のみ
- ・審査員はボランティアである。そのほとんどは、生産者（ブリーダー）、取引業者、騎手など、その分野の専門家

〔質疑応答〕能力検定を行う場所と審査員の養成についての問いに答えて、一般的には馬を集めて審査すること、フランスでは全国7カ所で種牡馬の審査会を実施していること、審査機関の組織に関連するが、審査員の人数と昇格は、図1のようなプロセスを経て選出されることなどが紹介された。

〈種牡馬の選抜と牝馬の交配〉

また種馬の選抜についての質問に答えて説明があっ

○見習期間：

○全国審査員による
地区および地域イベント：

○セル・フランセ ファイナルおよび
種牡馬資格（国際大会）：

審査員になるための実習生

地域コーディネーターによる提案

118人の部門審査員
試験に合格

100人の地域審査員
審査事務所および地区審査員の
要請による試験の通過

図 1. スタッドブックの審査委員会の選出プロセス

た。生まれた牡仔馬は種馬になる可能性はある。一般には2～3歳と4～6歳（例外的な馬に対しまれに承認）、さらに7歳以上（国際競技会での成績、競技の結果と遺伝子解析または生産実績と遺伝子解析で判断）でもチャンスはある。

セル・フランセの生産頭数は年間約7千頭（2005年9,171頭から2014年5,806頭へと減少した後、漸増傾向に転じ2021年は7,512頭）のうち、種馬として選抜されるのは牡馬の2～3%であり、100頭を下回っている。年齢別に例示すると、2歳馬25%、3歳馬30%、4歳馬20%、5歳馬10%、6歳馬10%、それ以上5%程度である。種牡馬の選抜は4歳までで75%を占める（セル・フランセ協会HPによれば有資格種牡馬は全体で

700 頭)。

また、質問に答えて、繁殖牝馬の選抜については、全ての牝馬は自由に繁殖できるとした。すなわち、

- ・セル・フランセの牝馬
- ・セル・フランセ承認の種牡馬と他の品種の牝馬が交配された場合
- ・他品種の牝馬が鑑定され、「ラベル付きセル・フランセ」である場合

である。2021 年に 14,000 頭の牝馬が交配した。交配生産比率は 53.6% である。

なお、優秀な牝馬の育成方針についても、簡単に紹介された。すなわち、

- ・若い遺伝子を促進するための牝馬のイベント
- ・優秀な繁殖牝馬の育成（ラベル付与）
- ・母系血統と金銭的優遇措置

が講じられている。

先に述べたように、講習は当初の予定を短縮して午前中の 3 時間余となったため、セル・フランセ協会の組織について、十分には聴けず心残りであった。

4. 自由飛越の実技（午後 1 時 30 分～4 時、於 屋内馬場）

自由飛越の実技には若駒を中心に、11 頭（表 2 参照）が参加した。出番 1 から順次予定通り、午前中の講演での説明なども踏まえ、出場馬の年齢、性別などを考慮して、左手前で、自由飛越を実施した。

講師のブノワ・シェーニュ氏は、内国産のスポーツホースについて、良い印象を持ったようだ。実技は 4

時過ぎに、無事終了した（写真 3）。

結びに代えて—内国産スポーツホースの国際化—

沖崎会長らの熱意に応えセル・フランセ協会の講師は、詳細な資料を用意して来日した。初めに紹介されたように、日本人選手がセル・フランセに好んで騎乗していることやフランスからの馬精液の輸入解禁（平成 29 年 2 月）などで、フランスとしても日本のスポーツホース生産に好意的に協力しようとする姿勢がうかがえる。同時に、今回の午前中の座学では、時間の関係で説明されなかったものの、実は大きな課題が残されていた。

〈世界スポーツホース繁殖連盟との連携〉

今後、日本が WBFSH（World Breeding Federation for Sport Horses = 世界スポーツホース繁殖連盟）と、どのように連携をしていくかという課題である。まず、WBFSH の設立経緯を紹介したい（FEI（国際馬術連盟）ホームページによる）。

この組織は、FEI 会長だった英国のアン王女が欧州主要国のスポーツホーススタッドブック関係者を 1988 年 9 月、同 12 月、1989 年 5 月と一連の会議に招き、スタッドブックのチャンピオンシップ、同ランキングの作成などにつき話し合いを持ったことが契機となり、組織化へ動き始めた。その 3 年後の 1992 年 11 月、スポーツホースの世界繁殖選手権（WBCSH）というパイロットプロジェクトを開催した。要するに、優秀なスポーツホースの繁殖を刺激することを目的として活動を始めた組織である。活動の経緯からみても FEI とは

表 2. 日本スポーツホース協会種馬検定出番表（令和 4 年 10 月 27 日（木）午後）

出番	馬名	性	馬齢	毛色	所有者	所属	備考
1	ショウリ	セン	1	鹿毛	鈴木直人	NS FARM	馬場馬
2	ディアンドゥソワレ	牝	1	栗毛	鈴木直人	NS FARM	同上
3	ルーニー	牡	1	黒鹿毛	北総乗馬クラブ	北総乗馬クラブ	障碍馬
4	クレスト	牡	2	葦毛	北総乗馬クラブ	北総乗馬クラブ	同上
5	ブルミエ FRO	牡	2	葦毛	ブラニューディ	ブラニューディ	同上
6	ウルティメ FRO	牡	2	鹿毛	ブラニューディ	ブラニューディ	同上
7	ローヤリティー	セン	3	鹿毛	北総乗馬クラブ	北総乗馬クラブ	同上
8	チヒロ	牝	4	鹿毛	藤田 充	フジホースライディング	同上
9	キャリーズクリミア	牡	4	葦毛	北総乗馬クラブ	北総乗馬クラブ	同上
10	クラリッサ	牝	5	葦毛	北総乗馬クラブ	北総乗馬クラブ	同上
11	クリスティアーノ	セン	7	葦毛	北総乗馬クラブ	北総乗馬クラブ	同上*

資料：実技講習会（JRA 馬事公苑宇都宮営業所 屋内馬場）配布

注：* 第 74 回全日本馬術大会 2022 Part II 内国産選手権第 3 位



写真 3. 実馬講習会（10月27日午後）での自由飛越
場所：JRA 馬事公苑宇都宮営業所 屋内馬場（写真：一般社団法人 日本スポーツホース協会提供）

不可分の関係にあることがわかる。

今では、馬スポーツの盛んな欧米などの84団体を構成とする組織になっている。会員の資格要件は8つである（講習会資料）。

- ・少なくとも1つのオリンピック種目（障害競技、総合競技、馬場馬術競技）の選択目標があること
- ・馬の生産者および／または馬の飼育に関連する会員により構成され、会員により民主的に管理・運営される団体であること
- ・選任基準を明確にした理事会を設置すること
- ・信頼される登録機関に期待される一般的な基準に従って倫理的に運営される法人であること
- ・自国の担当行政機関（多くは農務省）からスポーツホースのスタッドブックとして認定されること
- ・少なくとも5年間、スタッドブックの活動を証明する書類によって正当化されること
- ・存続に十分な規模であること、馬の識別と登録を行うこと、繁殖プログラムを実施すること、申請書を評価するために考慮される基準：スタッドブックの繁殖ストック（牝馬と種牡馬）の数、年間出生数、他のスタッドブックの繁殖プログラムとの関係
- ・候補スタッドブックの名称が他国のスタッドブックを指す場合、2つのスタッドブックの関係が明確に確立され、同意が得られていること

以上の条件に適合し得る日本での組織体は公益社団法人日本馬事協会であろうが、十分な機能を備えているかどうか鋭意検討していく必要がある。

今回の講習会を通じてアジアの隣国の事情が明らかになった。ブノワ・シェーニュ氏の話によると、中国は2023年にもWBFSHの会員資格を得る見込みだという（2023年1月現在、準会員）。わが国に先駆けて、中国のスポーツホースのスタッドブックが国際標準の仲間入りをする見込み、ということだ。

〈「家畜改良増殖目標」に注目しよう〉

農林水産省の「家畜改良増殖目標」（令和2年3月公表）において乗用馬の能力向上に資する取り組みが記述されている（V馬2-(3)）。その中で「飛越能力等の評価方法の確立およびその実用化に向けた取り組みを推進する」とされている。今回の講習会は、この取り組みを具体化しようとする初めての試みであり、JRAの馬事関係事業の助成を受けている。

筆者は、日本の大家畜畜産業は3本の柱（乳用牛、肉用牛、競走用馬）に支えられ成功を収めているとし、スポーツホースを4本目の柱として育種（改良増殖）に努めるよう提案した（ピポファイル No. 82）。前述のWBFSHがオリンピック級のスポーツホースの育種を目指すスタッドブックで組織されていること、種馬の選抜の過程で優秀なスポーツホースが育成されていることは、講演内容からも明らかである。

今回の講演会を契機に、日本でもスポーツホースの生産者、乗馬クラブ関係者、国際競技選手経験者、獣医師等の専門家の協力を得て組織化され、能力検定が全国的に統一した方針のもとに実施され、種牡馬の選抜やスポーツホースの運動能力の向上に活用されることを期待する。

（注）第二次大戦後、フランスの馬生産はスポーツホースの生産に向かい始めていた。1958年12月、フランスの各地の半血種馬（Demi-sang）のうち代表的なアングロノルマン、ヴァンデアンおよびシャロレーを共通のル・シュヴァル・ドウ・セル・フランセ（フランスの乗用馬）という名称でグループ化した。これがセル・フランセの血統を誕生させる契機となった（セル・フランセ協会 HP 参照）。

臨床委員会 DVD 販売のお知らせ

日本ウマ科学会臨床委員会では、過去に開催された臨床委員会主催の招待講演ならびに実習の DVD を販売しています。

＜お申し込み方法＞

以下の申込用紙をご利用いただくか、メールで事務局までお申し込みください。

＜価格および代金のお支払い方法＞

価格は1セット **3,000 円**（税込）です。

お申し込み後、折り返し合計代金をご連絡いたしますので、ご確認の上、下記口座まで代金をお振込みください。納金確認後、宅配便にてお送りいたします。なお、お手数ですが送料は受取人様払いでお願いいたします。

郵便振替口座 記号番号：00130-3-539393

または

ゆうちょ銀行（9900）〇一九（ゼロイチキュウ）店 当座預金口座 539393

口座名：日本ウマ科学会（ニホンウマカカ^クカイ）

----- キリトリセン -----

申込用紙

ご希望の DVD と 枚数	(1) 2009 年（第 22 回学術集会）	Dr. Brooks	眼科	() セット
	(2) 2010 年（第 23 回学術集会）	Dr. Richardson	整形外科	() セット
	(3) 2011 年（第 24 回学術集会）	Dr. LeBlanc	繁殖	() セット
	(4) 2012 年（第 25 回学術集会）	Dr. Dyson	跛行診断	() セット
	(5) 2013 年（第 26 回学術集会）	Dr. White	急性腹症	() セット
	(6) 2014 年（第 27 回学術集会）	Dr. Scott	装蹄	() セット
	(7) 2015 年	Dr. Mama & Steffey	麻酔	() セット
	(8) 2016 年（第 29 回学術集会）	Dr. Ducharme	呼吸器	() セット
	(9) 2017 年（第 30 回学術集会）	Dr. Hyde	歯科	() セット
お名前				
ご送付先住所				
ご所属				
電話番号				
メールアドレス				

連絡先：日本ウマ科学会事務局

FAX：0285-44-5676

e-mail：e-office@equinst.go.jp

住所：〒329-0412 栃木県下野市柴 1400-4 JRA 競走馬総合研究所

協賛団体名

団 体 名	〒	住 所
日本中央競馬会	105-0003	東京都港区西新橋 1-1-1
地方競馬全国協会	106-8639	東京都港区麻布台 2-2-1 麻布台ビル

賛助会員名簿

(五十音順)

会 員 名	〒	住 所
(株)アイベック	170-0002	東京都豊島区巣鴨 1-24-12 アーバンポイント巣鴨 4F
公益財団法人 軽種馬育成調教センター	057-0171	北海道浦河郡浦河町西舎 528
公益財団法人 競走馬理化学研究所	320-0851	栃木県宇都宮市鶴田町 1731-2
JRA システムサービス(株)	135-0034	東京都江東区永代 1-14-5 永代ダイヤビル 7F
JRA ファシリティーズ(株)	104-0032	東京都中央区八丁堀 3-19-9 ジオ八丁堀
公益財団法人 ジャパン・スタッド ブック・インターナショナル	105-0004	東京都港区新橋 4-5-4 日本中央競馬会新橋分館 6F
公益財団法人 全国競馬・畜産振興会	105-0004	東京都港区新橋 4-5-4 日本中央競馬会新橋分館 3F
公益社団法人 全国乗馬倶楽部振興協会	105-0004	東京都港区新橋 4-5-4 日本中央競馬会新橋分館 5F
ゾエティス・ジャパン(株)	151-0053	東京都渋谷区代々木 3-22-7 新宿文化クイントビル 14 階
中央競馬馬主相互会	105-0004	東京都港区新橋 4-7-26 東洋海事ビル 3F
住友ファーマアニマルヘルス(株)	541-0053	大阪府大阪市中央区本町二丁目 5-7 メットライフ本町スクエア 10F
一般社団法人 日本競走馬協会	106-0041	東京都港区麻布台 2-2-1 麻布台ビル
公益社団法人 日本軽種馬協会	105-0004	東京都港区新橋 4-5-4 日本中央競馬会新橋分館 3F
一般財団法人 日本生物科学研究所	198-0024	東京都青梅市新町 9-2221-1
公益社団法人 日本装蹄協会	105-0004	東京都港区新橋 4-5-4 日本中央競馬会新橋分館 7F
一般財団法人 日本中央競馬会弘済会	105-0003	東京都港区西新橋 1-1-1
公益社団法人 日本馬事協会	104-0033	東京都中央区新川 2-6-16 馬事畜産会館 7F
公益社団法人 日本馬術連盟	104-0033	東京都中央区新川 2-6-16 馬事畜産会館 6F
一般財団法人 馬事畜産会館	104-0033	東京都中央区新川 2-6-16
文永堂出版(株)	113-0033	東京都文京区本郷 2-27-18

Hippophile 投稿に関する基準

(2013 年 4 月 1 日一部改定)

- ① 本誌の投稿は、Hippophile 投稿規程（以下「規程」という。）に基づくことを基本とする。
- ② この基準は、投稿者が投稿しやすいよう投稿分野ごとに細目を定めたものである。
- ③ 原稿を本誌の目的に沿ったものにするため、1～3名の審査員により審査を行い、事務局（(株)アイベック）を通じて投稿者と調整を行う。審査員の指摘を受けた投稿者は速やかに事務局に回答するものとする。その目的は、多種多様な本学会会員に対し、解りやすく美しい文章で、かつ投稿者の真意が正確に伝わる記事にすることにある。
編集委員（長）および審査員は、掲載の可否にあたっては、内容が特に営利目的でないもの、あるいは偏った個人批判、地域批判、団体批判を含まないものであることに留意する。
- ④ 本誌は、図表のカラー化を取り入れていることから、良好なプリントや色彩を求める。
- ⑤ 本誌は、各号のページ数を刷上り約 40 ページとするため、投稿ページ数に制限を設ける。ただし、やむを得ない場合は、投稿者と協議のうえ、編集委員長がページ数を決定する。
- ⑥ 図は、写真を含めて図と称し、番号を付け、タイトルと説明文を付記することとする。その大きさは縦 6.0 cm × 横 8.5 cm とするが、説明文のスペースの関係から図 1 枚につき縦約 7 cm 取ることとする。ページ数の調整の関係で編集委員（長）の一任により図のサイズを決定することがある。
- ⑦ 投稿者は顔写真（カラー）と略歴（150 字程度）を添付することとする。
- ⑧ 刷上り最大 24 字 × 42 行 × 2 段 = 2,016 字の字数が 1 ページに印刷可能であり、これを目安に投稿することとする。
- ⑨ 図 1 枚の占めるスペースの字数は約 168 字となる。
- ⑩ 表にはタイトルと説明文のほか、必要に応じて注釈・解説文を添付することとし、表の大きさは、ページ数を考慮し、審査員と編集委員（長）が協議のうえ決定する。
- ⑪ 投稿者に原稿料（1 ページにつき 3 千円）を支払う。ただし、原則として研究論文や施設紹介には支払わない。原稿料は、刷上りのページ数により算出し、ページ半分に満たない部分は切捨てとする。ただし、5 ページ相当の原稿料（1 万 5 千円）を上限とする。
- ⑫ 投稿者は、原稿内容により、以下の各コーナーの分類について要望又は指定することができる。

総説：

【ウマの科学的分野における研究の総括と展望】

- ① 文献展望を主体とし、刷上りは図表を含めて 10 ページ以内程度とする。

科学論文・一般学術論文：

【ウマ科学に貢献する未発表・他の学術誌に未掲載の和文論文】

- ① オリジナリティーの高いもの。

- ② 科学論文は、研究目的、材料・方法、成績・結果、考察、纏めが適切に記述されている自然科学の論文とする。
- ③ 一般学術論文は、自然科学に準ずるが、馬の文化、経済学、芸術、歴史などの人文科学の論文とする。
- ④ 刷上りのページ数は図表を含めて 10～12 ページ以内程度とする。
- ⑤ 引用文献の書き方は JES の投稿規程に準ずる。本文中のナンバーリングは上付きとし、引用文献順に掲載する。但し、著者名の記載は 1 名あるいは 2 名までとし、3 名以上の場合は代表者 1 名を記載し「その他、あるいは et al.」として記載する。

馬事往来：

【馬との関わりについての提言、レポート、エッセイなど】

- ① 馬の文化や科学の実態を会員が相互に理解しておく必要性のあるもの。
- ② 刷上りのページ数は図表を含めて 3 ページ程度とする。

馬事資料：

【馬に関連する資料の掲載】

- ① 日本の馬事資料として保存しておく必要性のある内容のものを掲載。
- ② 刷上りのページ数は図表を含めて 3 ページ程度とする。

特別記事：

【馬に関連する競技会やイベント、利用実態などの記事】

- ① 馬に関係する各種催し物や活動状況などを紹介。
- ② 刷上りのページ数は図表を含めて 3 ページ以内とする。

馬事施設紹介：

【馬の文化・科学に関わる施設の紹介】

- ① 日本の馬事文化、研究、教育、乗馬等に関わりのある施設などの紹介記事。
- ② 刷上りのページ数は図表を含めて 3 ページ以内とする。

学術集会記事：

【馬に関する学術集会における講演内容等の掲載】

- ① 本学会の学術集会等を主体に掲載。
- ② 刷上りのページ数は図表を含めて 3 ページ程度とする。

関連研究会記事、その他：

- ① 規程に準じて取り扱う。
- ② 刷上りのページ数は 1～2 ページとする。
- ③ いずれのコーナーにも該当しないものにあつては、編集委員長が新たにコーナーを設けることができる。

投稿原稿送付先

Hippophile 編集事務局宛に e-mail もしくは郵送でデータを送付のこと。（投稿された原稿は返却しませんので予めご了承ください。）

e-mail: hippo@ipecc-pub.co.jp

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨 1-24-12

(株)アイベック内 Hippophile 編集事務局

編集後記

ムツゴロウの名で知られる畑正憲氏が今年亡くなりました。編集子が生物系の分野に進んだのは畑正憲氏の著書の影響がありました。『われら動物みな兄弟』をはじめとする彼の多くの著書を読んで、生物学の楽しさに強い印象を受けました。さてその畑正憲氏と、とある雑誌で馬の心を巡って対談をしたことがあります。対談といってもどちらかというと当方がインタビュアーの立場だったのですが、逆に畑さんから馬に関して彼特有の相当細かいことまで聞かれ、結果的にはなかなか面白い対談になりました。思い出とともに、畑氏のご冥福をお祈りします。

本号の最初の【馬事資料】は、映画隆盛期の馬方高岡政次郎氏の功績について、東映で長く仕事をされてきた山口記弘さんに寄稿いただきました。馬たちのいる貴重な写真とともに、この記事の資料的価値は高いものと考えられます。

次の【馬事資料】は、立川健治さんの日露競馬大会の連載二回目のご寄稿です。日本競馬史の知られざる側面があらわになってきます。

【馬事往来】は対馬市で馬とともに仕事をしている吉原知子さんに、日本在来馬のひとつ対州馬の現状について報告いただきました。吉原さんの対州馬に対する思い入れが強く伝わります。

【会員通信】として池田収さんからセル・フランセ協会の講師による講習会の報告をいただきました。池田さんは日本産のスポーツホースが広く活躍すること強く願っていますが、今回のレポートもこれからの日本産馬の能力向上のための基礎となると思います。

(編集委員長 楠瀬 良)

入会申し込み方法

下記宛にお申し込み下さい。年会費は5,000円(国内)です。

日本ウマ科学会事務局

〒329-0412 栃木県下野市柴 1400-4

JRA 競走馬総合研究所内

電話 0285-39-7398 FAX 0285-44-5676

E-mail : e-office@equinst.go.jp

Hippophile, No. 94, 2023

2023年9月発行

<https://jses.jp>

編集委員長：楠瀬 良

発行者：青木 修

〒329-0412 栃木県下野市柴 1400-4

JRA 競走馬総合研究所内

電話 0285-39-7398 FAX 0285-44-5676

郵便振替口座番号 00130-3-539393

または

ゆうちょ銀行(9900) 〇一九(ゼロイチキョウ) 店

当座預金口座 539393

口座名：日本ウマ科学会(ニホンウマカガクカイ)

印刷者：株式会社 アイベック

〒170-0002 豊島区巣鴨 1-24-12

電話 03-5978-4067